



2026年度 立教大学 推薦入学者数

Table with columns: 学部, 学科, 専修, 推薦枠, 合格者数. Includes departments like 文, 経済, 理, 社会, 法, 観光, コミュニティ福祉, 経営, 現代心理, 異文化, スポーツウエルネス, 環境.

※※※ 新座校より3つ枠を受ける。
※※※ 新座校より2つ枠を受ける。
※ 新座校より1つ枠を受ける。
理学部は、各学科4名まで。ただし、理学部全体では8名まで。

自己推薦

自己推薦は七項目あり、その中から三項目まで申請できます。今年度も殆どの生徒が学習面と生活面から申請をしました。
学習面は三年間でA合格(B合格二個でA合格に相当)が五十名。生活面では中高六年間精勤または高校三年間皆勤が五十八名。
共に学校生活において大変努力した結果であると思われまます。
満点の一五〇点が十二名、一一〇点以上が六十六名の結果でした。
※卒業生受賞者については式当日配布の式文をご覧ください。

十字 今月の聖句

フィリピの信徒への手紙 1章 3~4節
私は、あなたがたのことを思い起こす度に、私の神に感謝し、あなたがた一同のために祈る度に、いつも喜びをもって祈っています。

最善への感謝
私は多くの人と同じように、新しい場所へ進むために何度も試験を受けてきました。そして、一度で合格した経験はほとんどないほど、失敗を多く重ねてきた人間です。聖職者への道もまた、同じでした。
聖職者になるための面接で、今でも忘れられない一つの質問があります。「あなたの身近に、好きな先輩や尊敬している先生はいますか?」という問いでした。その瞬間、私は言葉に詰まり、結局、教科書的な答えしか返すことができませんでした。しかし、その質問はその後ずっと心に残り、私自身を省みるきっかけとなりました。聖職者を志しながら、私は常に「最高のもの」だけを思い描き、その理想ばかりを追い求めていました。その一方で、現実の生活の中にある自分の周囲を、不満や不平の対象として見ていたことに気づかされたのです。経験や実践を欠いたまま、観念や理想だけに生きるという、ある種の驕りを抱えていたのだと思います。それ以来、与えられた条件や環境の中で、私とのより良い関係のために、また私の人生と未来のために心を尽くしてくれた人々の姿が、少しずつ見えるようになりました。そして、その人たちに感謝すべきであることを知りました。
三月は卒業式のある月です。立教池袋中学校高等学校の生徒の皆さん、特に卒業生の皆さんには、矛盾や限界を抱えた人生の中で、それでもなお最善をもって皆さんに向き合ってくれた人々——先生方、両親、友人や先輩・後輩の存在を、ぜひ思い起こしていただきたいと思えます。そして、その人たちに感謝してください。その記憶と感謝こそが、皆さんをより成熟した人間へと、そして神の御心にかなう人間へと導いてくれるでしょう。

2026年度 立教大学被推薦者の英語条項

Table with columns: 条項, 認定率. 英検2級 (TOEFL, TOEIC等も含む) 以上で認定 87.8%, 英検準2級 (TOEFL, TOEIC等も含む) + alpha で認定 12.2%

英語条項
今年も英検・TOEICで、ハイスコアを取った生徒が大変多かったようです。一三一名が認定され、このうち、英検二級(またはTOEFL・TOEIC等で同程度のスコア)以上の有資格者が一一五名となりました。

中学一年便り

イスカレーター

とある有名なアニメのワンシーン。大人への階段を登る五歳の子どもが、大人に「大人はなにを思っているの?」と問われる。子どもは「大人はなにを思っているの?」と答える。このシーン、大人はなにを思っているの?
今年も、イスカレーターという、大人と子どもが対峙する機会がありました。イスカレーターは、大人と子どもが対峙する機会があります。大人はなにを思っているの?
今年も、イスカレーターという、大人と子どもが対峙する機会がありました。イスカレーターは、大人と子どもが対峙する機会があります。大人はなにを思っているの?

中学二年便り

当たり前について

五年ほど前までは医療機関とは無縁の健康体であり、健保組合から表彰を受けたこともあった私だが、最近何かと調子が悪い。慢性的な痛みが二か所、うち一つは手術をしないと完治しないと。季節の変わり目には必ず体調を崩す有り様に、老いを実感するこの頃。節制とトレーニングを日課にしているからこそ、余計に自分に腹が立つ。当たり前に健康体でいられたことが、いかに幸せだったのか、今更ながらに痛感する。
さて、君たちはどうか。色々が当たり前の中にやりにくさることをお勧めする。色々とは、健康はもちろん、今の生活環境、使える時間、熱中している学友会や趣味などを指すのだから、いなか必ず終わりが来るのだ。終わりとはいわねえ。その時に悔いても、もう遅い。当たり前が続くうちにやりきって、いざ来たる終わりを迎えてほしい。
自分の今ある当たり前を軽んじている人が多い気がする。中学生はあと一年で終わるのに。もったいない。

高校一年便り

点から線にする覚悟

この一年で、どれだけのこと丁寧に引き合えたでしょうか。出会い、学び、経験。その全てが、ひとりひとりの点です。その一つ一つは小さく見えるかもしれませんが、積み重なると、やがて自分自身を形づくる大切な要素になります。上手いかなかった経験や悩んだ時間も、決して無駄ではありません。点を増やす努力は、これからは続けていかなければいけません。
次年度に向けて、心に留めてほしいことが二つあります。一つ目は、「将来のビジョンをもつこと」。二月の入試で出会った受験生たちは、明確な将来像とその理由、実現のための努力を語っていました。これから皆さんも、学部選択や留学、進学に立つ機会が増えていきまは自分の描く未来です。二つ目は、「自分との対話」。周囲の意見は勿論大切ですが、最終的に道を決めるのは自分です。迷いや不安を感じることもあるでしょう。しかし、その時間も自分を成長させる大切な過程です。自分で選んだ道を最良だったと思えるよう、日頃から自分との対話を繰り返して、自分の内面と向き合ってください。
点を集めるだけでは未来には繋がりません。「自分は何をしたいのか」を問い続け、必要な点を選び、点と点を線にする。その線がやがて自分だけの道になりまは。その意識を持って日々を過ごしてほしいと強く願っています。

高校二年便り

運に見るものの正体

NHK「時空を超えて」運は存在するの?という問いに、物理学の観点から、量子力学の立場から、宇宙の根本原理には本質的なランダム性、即ち偶然性が含まれている。しかし、私たちが目にするのは、マクロな人間の営みにおいて結果は意識や行動の積み重ねによって形づくられるという視点だ。トポロジーの「ホトトギス」連続してシフトが決まる。今日の研究は、「運」という言葉の背後に、集中力の維持やフォロームの安定といった要因が関わっている可能性を示した。偶然の連続に見え勢の延長線上に現れているのか?という問い。▼優勝したプロが使った「優勝」は、特別な人、同じ道具であった成功者が高まった。特別だったのは、よくプロのパターを手に入れた、自分もできるかもしれない。▼二つに共通するのは、「運」に見える出来事のは、用いて自分の状態や解釈が作られる。自分も自分も変化して確定できる。しかし、不安定であることは、不安定であると同時に可能性が開かれる。運とは、運を待つ営みではない。何に関心を抱き、どのように関わり続けるかを問う。振り返ったとき、その選択の意味があつたと言えるのか?は、今の向き合い方にかかっているのではないだろうか。